

二

米
國

5-0176

0232

	<p>「甲鉄船収領顛末」は5・8・10にあり。</p>
<p>外務省</p>	

5-0176

0233

○萬幕府より米國へ製造ヲ依頼セシ甲
 鉄體領収ノ件ニ執テハ僅ニ數葉ノ書
 類ヲ存スル而已ニテ其顛末ヲ知ル能ハス
 抑此件ハ戊辰年間内地騷擾ノ際局外
 中立事件ニ関涉シ彼此參考セザレハ
 其事ノ状ヲ悉ク能ハス依テ甲鉄體領収
 顛末ト題スル者ヲ編纂スル具顛末ヲ知
 ルニ供ス

明治十六年三月

甲鉄體領収顛末

品前記

萬幕府中ノ部

乾坤

同

後新記

外部

乾坤

外務省

辰月四月十五日

才鴻圖藏友

陸奥陽之助

井岡高右衛門友

西園寺實以

五代才助

先般回幕分米國證文之銅錢艦米着市地下碇船由
右舟

朝廷正洋銀五拾萬枚者即買上儀出定成即用途与
一多金四拾萬支急速浦建与一在松陸奥陽之助上
仰付在得共冲業内通限花之形勢之速之謝金難之慙
見番之窮策之ガハ高社之余レ買取也

外務省

朝廷上差中之松花判之一三幕政出皆痛之上既之明口火
船便之同高社クルハ并ヒコト人ノ為其以地上之之越之
付掛之儀情實之疑及取之向此一札持之余之以也皆
長之以内場之以出之不之以熟味臨之及在之尤舊幕之内
實之五拾萬枚之内最早四拾萬枚之以相拂御格之萬
枚之後候之代掛都之相併之事之由之及之要米國之後使
卿之一新之所柄之及之儀滿之也
朝廷回幕双方之不之後通之相軍之在得之初登之證文之以印之
我朝之改權德川之上之御委之修之多之是之外之日本政府之以之之證文
艦之方之及之今般德川慶喜改權之奉復

朝廷甚後遂賊 朝敵之若等不免其變了既之官軍鎮
撫使若等向在交謝衆之道亦立江戶城是也其後在上
を今口と云

朝廷舊幕同日論名不取後初と下り幕裡文に才と多敷出
地と事情降、不取分は得た前件申出在通日本政府と宛
文艦、四指為取り為相後為名出遠無く能る誠金後為
枚を當節相拂はる最中今日と云ふ不取後は在幕後
御中申出の御是と云い通いと云い論と不取後等と
を今各國の使と在會とをい日本政府と

外務省

い、幕府も夫形不取改定外務取と云政府と不取所以
進く可取拂半に候御も御取船も日本政府と禮文に不取
等々多理然き色と云い誠金後為枚を今可取取と
勿論之知ると各國の使と云論と云い編一若又不取後と
の事をも回幕に傍初不取拂米も使は迫はつと何可取と
武内と承りは此傍又之原軍内取と取も若くは有身出
合出評議院及代拂もと義と云地と應の減別紙と云
取斗可取は尚御事とクルム年と云不取取と取後
以取及御掛合在望

己四月十日

救合濟

辰六月十三日書

一采國公使と書翰

以手紙致送遠く船を貴國に滞在
せし日本と學生五人我六月八日飛
御船にてハフリツキより帰る事との
事と傳承ししと硬錢船ストニオル
と義貴國政府と議事有る右船と

日本政府と引渡りて船あり決議
相成り来り承知しきしと貴國
政府より閣下と何とを以て回答せ成
り来り否為り知新下度此分は尋中
進り有るを得り意ししと

外國官准知事

戊辰
六月十二日

東久世中将

米國公使

アルビオン・フアルケンホルグ

閣下

5-0176

0230

No
Legation of the United States
Yokohama August 1. 1868

To

His Excellency
Higashi Kure Chiyojo
Minister of Foreign Affairs
do do do

In reply to your
letter of yesterday. I beg to
say, that if instructions had
been received by me to
deliver the Tomwall, I would
not have failed in compliance
with my promise to at once
notify your Excellency accordingly.
Your students are
probably

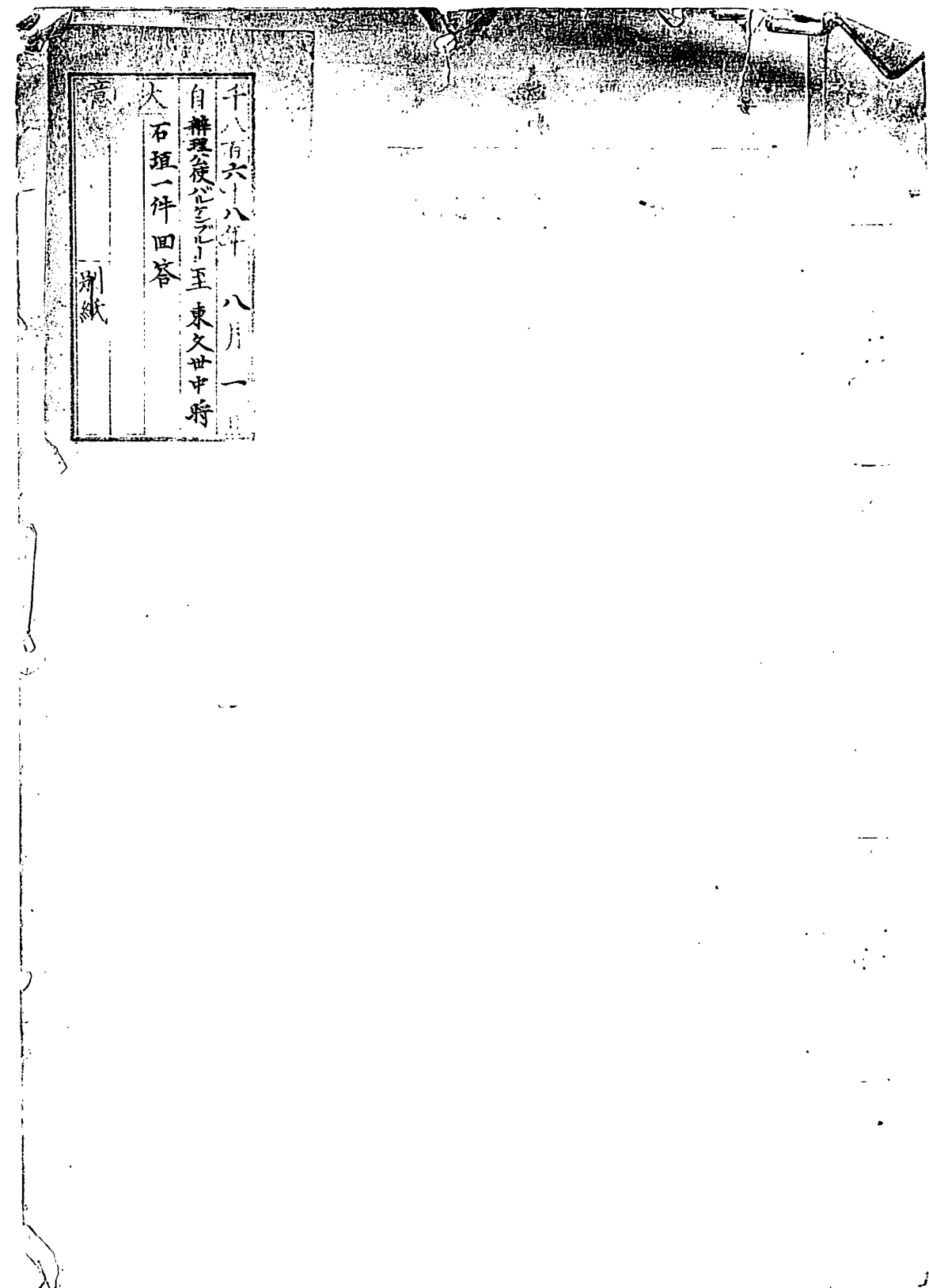
probably not aware that reports
from newspapers and other
sources, however interesting,
do not always correctly represent
the views of a Government.

Your Excellency may
depend upon my faithful
adherence to my promise.

With respect and Consideration

W. Marshall

Minister Resident of the
United States in Japan.



千八百六十八年 八月一
自辨理後公堂に上り至 東文世中將
大石垣一件回答
高
別紙

5-0176



校合濟

辰六月十三日

一 米國公使より返翰

亞米利加合衆國公使館より

千八百六十八年第八月一日

昨日所々津書翰致意を以て

拙者ストリーニウラールに引渡可申命を

請ひて其事より早速閣下より報知

可致し約束之義を拙者急り申

表に新少少外に報告を以て

おと有るは乃ち政府に形状を以て

正しき書記に以てし給へる義

を貴國之學生達多分お存じ

義に存存に拙者より約束を以て義

に閣下より信用可成り

米利達合衆國シニストルレミデンド

アルゴウワシフアルケシカ
ルク

外國官准知事

東久世中将

閣下

5-0176

0244

十月廿九日 元日

庚十月廿九日

米國公使江之素翰

以今夕汝為上矣然在者事今夕

急に東京より多し甲後船に其旨は談

中入度は百何時係城に而宜者其如何

去中入度如此係以上

校齊

外國官准和事

東久世中将親押

米利望合衆國

ミニストルレシデント

巴子ラールアルビフアン

ラルケンボルク

閣下

十月二十四日

十月十八日

今度家銀存方が難分動出する

伊豆の山に上りて昔の山を懐く

心ゆくまで山を眺めしむ

山を眺めしむるは山を懐く

山を懐くは山を懐く

山を懐くは山を懐く

山を懐くは山を懐く

山を懐くは山を懐く

山を懐くは山を懐く

以權利心出我しお我々各々其の志

を誠實に以て其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

得た心は其の志を以て其の志を以て

丁酉年

外國友

新華

本傳の御友

丹國新華友

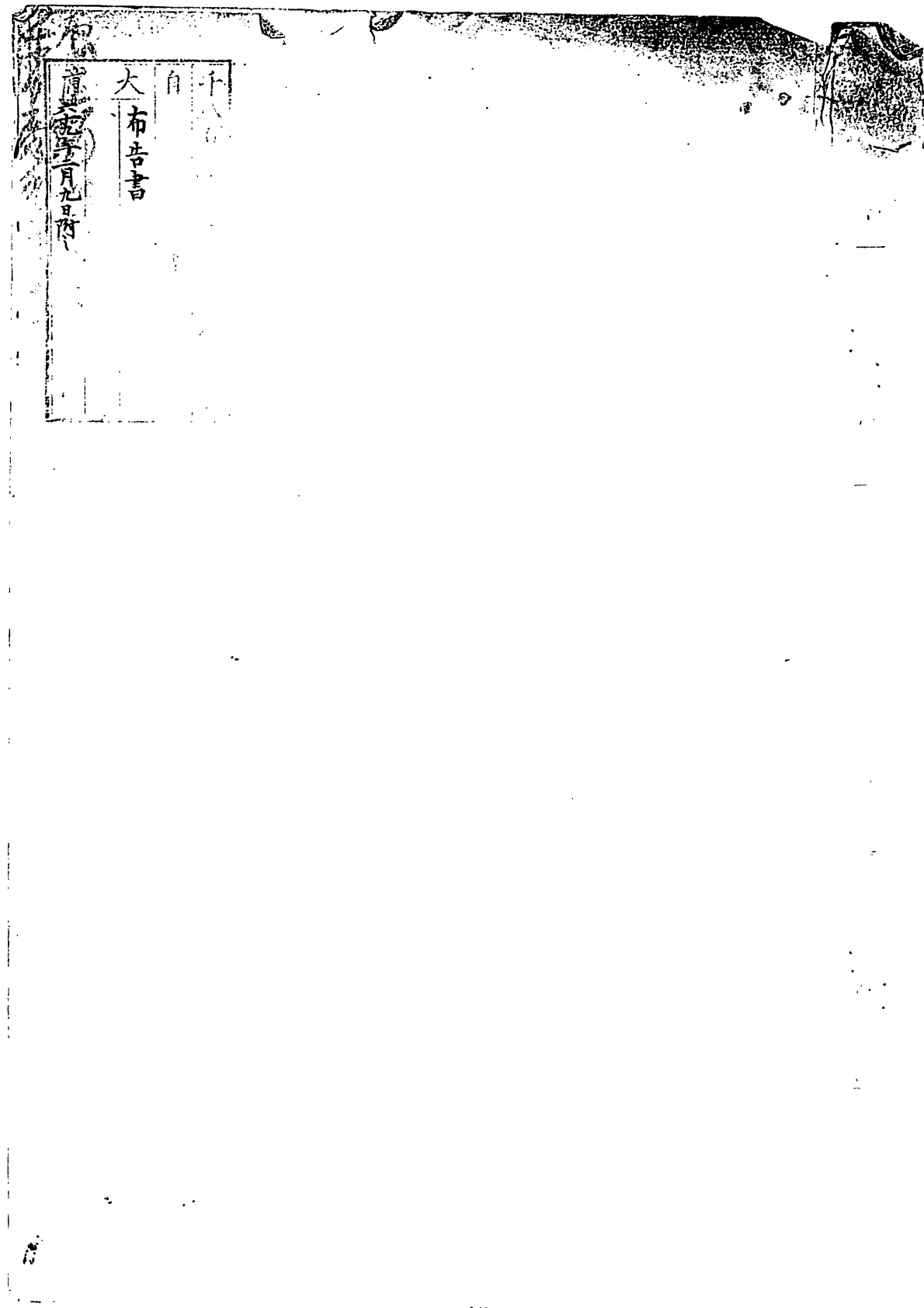
Notification

Legation of the United States in Japan
Yokohama February 9 1869.

Having been officially
informed of the cessation of
the state of war formerly
existing in Japan - and
having satisfied myself as
to the non-existence of
belligerents in this country,

I hereby give notice to
American Citizens, that the
Notification of Neutrality
issued by me on the
18th February 1868 at Niogo
(Kobe) is withdrawn.

Signed A. Van Valkenburgh
Minister Resident of the United States
in Japan.



5-0176

0249

Legation of the United States in Japan
Yokohama. January 9. 1869.

To

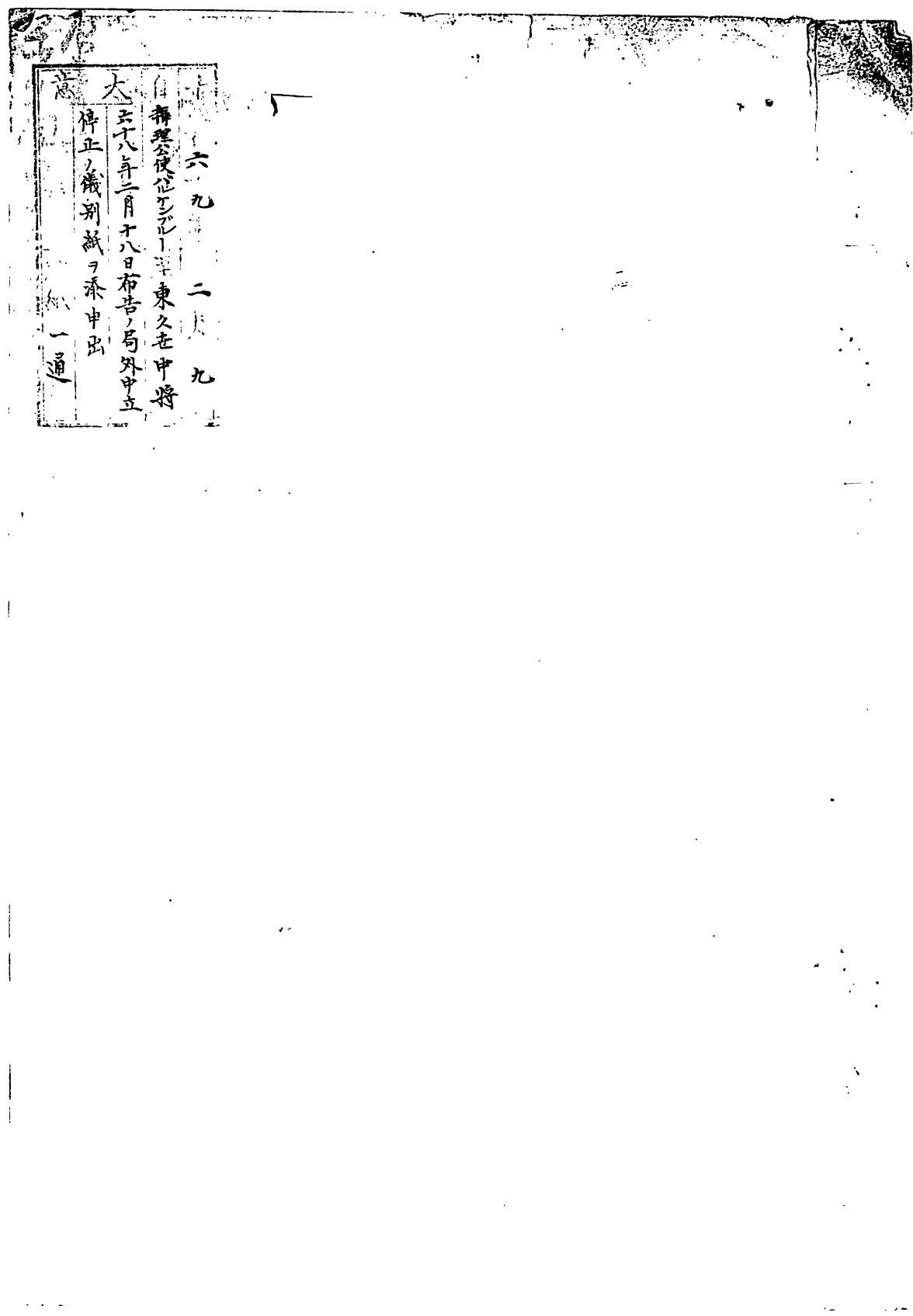
His Excellency
Migashi Kiyochiro
Minister for Foreign Affairs
Tokio.

In compliance with
the request of His Majesty's
Government, I have now
the honor to transmit copy
of Notification issued by me
this day, withdrawing the
Neutrality declarations of the
10th January 1869.

8
foregoing I have the honor to
inform Your Excellency, that I
am now prepared to enter
into arrangements for the delivery
of the "Stone Wall".

With respect and consideration

P. B. Warrick
Minister Resident of the United States
in Japan.



六九二九
 自稱聖使位工部卿東久在申將
 三十八年二月十八日布告ノ局外申立
 停止ノ儀別紙ヲ添申出
 一通

5-0176



左三青史

横濱より二月十九日
日本合衆國公使館宛

東京より

外國事務執政

東之世中將閣下

皇帝陛下政府の求むる旨
二十八年二月十九日布告せし

局外中多と慶此を事一なる
余より報せたる布告の旨を案
に閣下には呈し

在る余ストロニヨル船長
多と事被判定せんと欲する
閣下は報せし

在日本合衆國ミストルメント

アルハイムコナルをボサシ

5-0176

0254

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

布告

西暦一千九百零九年二月九日
於日本合衆國公使館

先前日中國の起る一戦事止
事は有公けの報告を得南國
幾國あるものありしを判知す
是れ兵庫神戸に於ける事

西暦一千九百零九年二月九日
由らるる局外中立の布告を今
廢止するを余無条件加入
告知す

在日本合衆國ミニストル・レシデント

アル・ヘイ、フマコナルをシボガ
手記



Handwritten text in a box at the top right, possibly a name or title.

寫

中

町民
町
町

貴國亦育有... 紙為... 局外... 町

Handwritten text with multiple seals at the bottom right.

和表... 臣民... 邦... 礎... 以... 軍...

5-0176

0256

寫

中邦之新治者新邦也先王爲之
亦何多乎古之所謂治者
當自天子始也

局外中立之國之安
政府之安否

却表一趨意以圖急事
臣民之希若一富學名
故者之品物又存身爲
礎而之裝我船以川後
乃奉
口法刺皮之海終
軍中書表事

5-0176

三〇



并の... 宗國... 三日月... 宗國... 三日月... 宗國... 三日月... 宗國...

三日月... 宗國...

宗國... 三日月...

5-0176



廿六十二年

明治元年中舊幕府於米國ヨリ甲鉄艦買入候儀、自彼國ト應接及引取手續等右関係ノ書類御省、省之修了致借用度此段及御照會候也

明治十二年二月十日

徳史館掌事三浦安

外務書記官 三浦

三浦安 太政官

5-0176

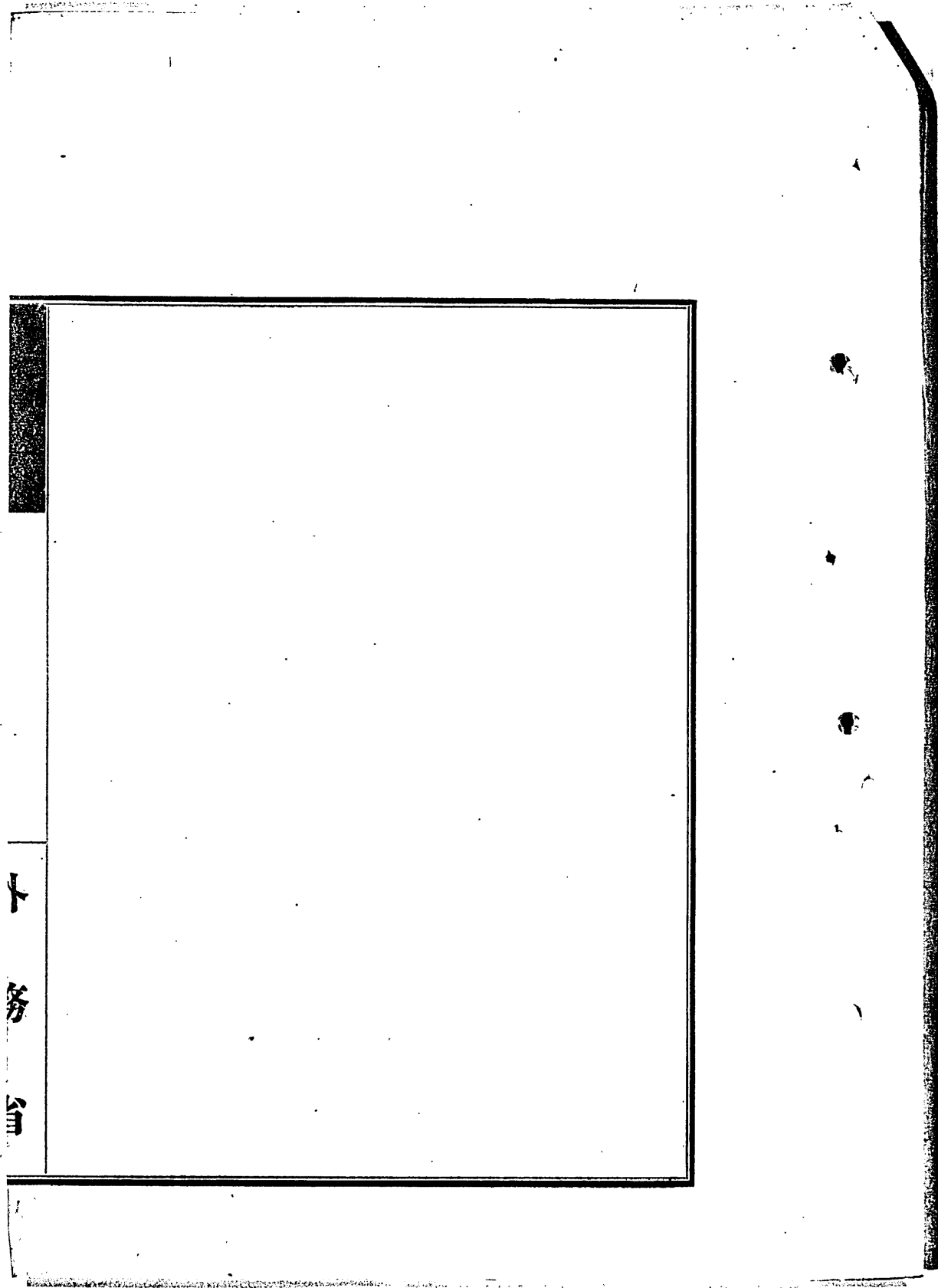


修史館監事三浦安友 外務大臣官房長官
 明治元年中藩幕府に於て米田より甲鉄艦
 買入せられたるに應接及び引取手續等右
 関係書類有らば之を借用し以て照會
 之趣致す可也然るに右事件之結果に依りて
 藩使に送られたる書類四通は陸奥陽に助西園寺
 晴以五代方助等より寄託陶務并関多田等より
 贈りし照會書類に因り存せられたる其
 他書類未だ明瞭不ハキ書類尙多
 存在するに於て同予以て参考
 として右書類寫取居進申す其
 右面書類如左
 也

外務省

十二年二月廿日





ト
務
省

5-0176

0251

ウカフニシテ、
此ノ事、
...

在東港日本領事館

三月

三月廿二日

...

次官了

明治廿八年八月二十日起草
同廿八年八月三十日發遣

政務局長

主任

海軍省
外務省
陸軍省
文部省
農商務省
司法省
內務省
大藏省
逓信省
文書省
御用掛

親展 第一六號

親展

原外務次官

伊藤海軍次官宛

軍艦製造注文ニ関スル件

外務省

北米合衆国^{ニ於テ}日本軍艦新造ノ注文ニ應
ジタキ上日一般ニ希望致シ居美趣別紙ニ通
在柔佛 神戶領事ヨリ報告有之矣ニ付
為参考右字等送付也

5-0176

0264

海軍省通達
代理大臣

大正四年二月一日接獲 主管 政務局 中田

秘書官

大臣

次官



海軍省通達
第四三三號

日清戦争終結、後ハ帝國政府ニ於テ一層
 軍備ヲ擴張スルニ志スト、凡開名國ニ傳ハリ
 候、後當米國並ニ英國ノ諸造船所及製
 鉄所等ヨリ進々代表者ヲ本邦ニ遣シ、又々
 注文相受度旨申出候中、慶爾來右ハ當
 國一般ノ注目スル處トナリ、新造セラレハキ軍
 艦ノ全部若クハ一部ニテモ米國ニ於テ之ヲ
 受クベシトハ強クト當國ノ輿論ノ如ク、相
 成リ造船又ハ製鉄ニ關係ナキ者迄モ本
 邦人ニ遣過スル毎、帝國政府ハ鐵雙
 軍艦ヲ當國ニ注文スル積リナルマヤ、尋
 ヲ凡位ニ有之候然ルニ、聞ク慶ニコレハ米
 國代表者等ノ陳述其旨シキヲ得サレシカ
 又ハ其筋ニ於テ當國ノ造船製鋼術ニ
 信用薄キカ故ニヤ、軍艦ヲ當國ニ注文ノ
 義ハ稍覺来ナキ様子ニテ、右代表者中
 歸來致シタル者モ有之ヤ、承知致候、軍艦
 新造ノ義ハ素ヨリ本官ノ關係スヘキ事柄
 ニ、莫之偏ニ其筋ノ裁定ニ任スヘキモノ、有
 之候一此本件ニ関スル當國一般ノ意向並
 當國ニテ注文ヲ受ケルト受ケサレトヨリ生
 スル國民ノ感情ハ本官ノ職分ニ於テ充テ
 觀望ヲ要スヘキモノト存候、本官ノ見ル處ニテ
 ハ、我國カ當米國ト交ヲ修メテヨリ、以來
 數十年ニ及ビ、タリト雖モ、此間我國ニ對スル

在米國日本公使館

好意ハ終結一徹更ニ満リタルノ實之勝ニ
 日清戦争以來ハ一層一般ノ敬愛ヲ益シ
 政府ニ在テハ不少便極ニ補助ヲ我政府ニ
 英ノ人民ニ在テハ演説ニ新聞ニ我國ヲ賞
 賛シテ餘ス處アラサリシ等直接間接ニ帝
 國ノ利益ヲ興ヘタルノ莫大ト存候然ルニ
 今日殆シト米國ノ輿論ト迄成リタル軍
 艦製造ノ義ニ付帝國政府ニ於テ全ク米
 國ノ手ヲ離シ兼テ米國一般ノ嫉忌ハ凡英
 國ニ向ヒ新軍艦ノ製造ヲ盡ク注文相成ル
 様ノコアリテハ當國人ノ感情ヲ損スルコト不
 適テ之ヲ生スル不利益ハ我政府ニ於テモ
 預メ考察ノ内ニ包含シ置相成ルノ緊要ト
 在米國日本公使館
 存候尤モ軍艦ハ餘ノ品物ト異リ護國ノ
 要具ニ有之候ニ付慎リニ而不ノ交際ニノミ
 拘泥スル各國ニ於テ製造シ得ルモノニ就キ
 其善良ナルヲ執テ之ヲ我ニ供スルハ勿
 論ノ義ニ有之候ニ付本官カ閣下處ニヨレハ
 當米國ハ造船製鋼ノ技術ニ於テモ決して
 他國ニ劣ラサル中ニ有之當國カ最近六七
 年間ニ為シタル造船製鋼ノ進歩ハ世界
 各國ノ警視スル處ニシテ近頃出来しタル軍
 艦ノシゲヤナ巡洋艦ニユリヨリ、ミニヤポリス
 大西洋郵便船等ト、ボリル等ハ各種ノ艦
 船ニ就キ之ヲ比較スルモ勝ルコトアルモ決して
 一歩ヲ譲ラサル最良ノ艦船ノミナラス莫



併等、於子近以製造シタル艦艇、其種々
不完全ノ結果ヲ見タルコトアルモ米國、於
テハ未ダ一雙艦モ之ナシトシ、有之隨テ我
政府カ米國ヲ措テ英國ニ注文モトスルヲ
見テ米國人ハ既ニ不思議ノ想ヲ爲シ存邦
ノ遠近家ヲ目シテ英國ノ諸會社ト私
ルカ如ク、見做シタル新聞通信者モアル
位、有之此右ハ素ヨリ一箇ノ臆測、過キス
候一此ハ米國カ當國造船網ノ進歩ヲ承認
セサルヲ遺憾トシ多ク不快ノ念ヲ懷キ其
有様ノ一斑ヲ知ルモ是レハ存候
然レ、數日前或ル人ノ招待、ヨリ晚餐ニ
赴キ候際海軍大臣、ゴート氏モ同席ニテ

在米國日本公使館

談話ニ本件ニ移リ候、付本官ハ好極キナリ
ト存候間本件ニ関スル當國人ノ誤解ト帝
國ノ地位ヲ説明シ帝國政府ニ於テハ特ニ
英國ニ注文スルハ米國縁ナキハ素ヨリ造
材別沙ニ於テモ殊更ニ米國ヲ守テ英米ヲ
親シ、理由ナシト雖モ我技師ハ多ク英米ニ
留学シテ英米ノ技術ヲ目撃シタルカ故ニ
今ヨリ自分等、認識セサル米國ニ依リテモ
之ハ英米ヲ擇フハ自然ノ理、有之或ハ我
技師ヲ評シテ英米會社外私アルカ如ク、
見做スルハ有間敷想像説ニ比一劣ニ於テ
帝國造永技師術ノ進歩カ未ダ充分存候
、知ラレサルモ亦本誤解ノ原因タルコト

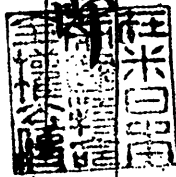
除本外、進歩ヲ英佛等ノ各國ニ以テ本邦
 造水家ノ参考ニ供スルニ必要ナル一書ヲ
 陳述致候處、海軍大臣モ主權内意ヲテ
 早速主務官ニ命シ告不トノ對照意見ヲ
 本官迄可送者ヲ約セラル由大務ノ關係
 ヲリ海軍省檢閱總監ノルビニ氏並ニ造
 水總監ヒツチホリニ氏ニ面會シ面談ニ及ヒ
 置タルニ兩三日前別紙甲乙号ノ通り、又々
 接到致候
 右甲乙号記載ノ事項ハ素ヨリ本官職責
 外ノ事リ何分ノ批評ヲ下ハツテ得サルニナ
 ラス當國造水術ノ進歩ニ就テハ當公使館
 附官岡海軍中佐ヨリ既ニ其筋ノ詳細
 在米國日本公使館
 報告致候候ニ付、今更茲ニ譯々スルハ不要
 ニ屬シ候一、右右甲乙号ノ取調ヲ為シタル
 ヒツチホリニ、及ヒノルビニ氏ハ其道ニ於テ
 學識經驗共ニ當國第一流ノ人物ニ付、兩
 氏ノ意見ハ其筋ニ於テモ充テ信ヲ措カレ
 於テ何等不都合與之モト存ニ付、茲ニ
 何別紙並ニ附屬書類共ニ不殘差出スル其
 筋ニ於テ精査有之様ハ取計相成ノ様
 也
 本件ニ關スル當國人ノ感覺ハ前記ノ通り、有之
 累シテ造水製鋼ノ術ニ於テ改州諸士方
 多サレヌノトスル上ニ、我政府ニ於テモ特ニ考
 慮相成候様致度、是ニ意見一通リ、右具申

候敬具

明治二十八年十二月廿三日

在米國

特命全權公使野村浩一



外務大臣代理

文部大臣候爵西園寺公望殿

在米國日本公使館

5-0176

0269

明治廿六年十二月廿八日
同廿八年十二月廿八日發遣

福

主件

海軍省
海軍部

政務局長 中田

次官 閣下

親展

西園寺外務大臣代理

伊藤總理大臣宛

帝國軍艦注文ニ関スル米國ノ輿論其四

國ニ於ケル造船製鋼技術進歩、美ニ用

別紙、通シ在米栗野公使ヨリ申越セ

外務省

為由事考右字差進也

(別紙檢査アリテ字付所之誤謬)

第一二三番送

明治廿八年十二月廿八日起
同廿八年十二月廿八日發達

主件

論書 整理

政務局長 中田

西園寺外務大臣代理

西郷海軍大臣宛

第九三號送展

帝國軍艦注文之関る米國ノ樂論見聞
國ニ於ケル造船製鋼技術進歩ノ美ニ付別
紙ノ通リ在米栗野公使ヨリ申越セヨ
右写

外務省

其附属書類共及由送付也

(各該附録カバニテ字附居之類共)

5-0176

三
氏
氏
氏

明治 年 月 日 起草
同 年 二 月 一 日 發 遣

主任

淨
筆
井
登
澤

親
展
羊
公
信



伊藤 氏 謹 啟

西 下 村 大 下 村

伊藤 氏 謹 啟

打 成 傳 書 者 亦 可 能 裝 造 方 便 文 件

亦 並 可 以 而 統 治 者 亦 可 以 爲 之

外 務 省

冬 考 亦 再 裝 造 了 可 以 裝 造 者 如 此 好 也

5-0176



親展

當桑港共同鉄工場（ミナソトイテラカア）太平洋沿岸ニ於テ最モ廣大ナル工場ヲ有シ當米國內屈指ノ造船所ニシテ合衆國軍艦中同造船所（ミナソト）製造ニ係ルモノ少カラズ就中鋼鉄戰鬥艦オレゴン（トウカハ八百噸）オリゴニア（ハ千五百噸）及イヤーレストン号等ハ堅牢精工ノ名譽ヲ博シ居テ而シテ談造船所ニ於テ豫テ頻ニ帝國軍艦製造ノ注文ヲ希望致居ル旨聞及テ同造船所副社長アーヴィン・グスコット氏（Living Scott）來ル十三日彼文部省ヲ以テ本邦へ向ケ出費可致因ニ其所用ノ鉄ハ確知難ク其得共前陳軍艦製造注文ニ關スル事件ノ為メハ無之哉ト推考致致テ日清戰爭

以來各地各新聞紙等ハ日本帝國ハ戰勝後太ニ海軍ノ擴張ヲ計リ軍艦増製ヲ企ツヘキハ必然ノ狀勢ニシテ日米兩國間平生親交ノ關係ヨリスルモ又日清戰爭ノ際合衆國カ日本ニ表シタル好意ノ点ヨリスルモ日本ハ必ス三艘ノ軍艦製造ヲ合衆國ノ造船所ニ注文スヘキハ疑ヲ容レサル處ニテ之カ為メ今後一層兩國間ノ關係ヲ親密ナラシムルノミナラス右米日本人ニ對スル合衆國市民ノ感情亦更ニ親厚ヲ加フルニ至ルヘシムルノ旨屢々其記事論說ニ掲載シテ頻ニ軍艦注文ノ義ヲ希望致居ル事ナリハ此際若シ政府ハ二三軍艦製造ハ前頭共同鉄工場若クハ他合衆國內造船所ニ注文セラレヌ様ノ義モモテウケテ合衆國市民一般

ノ好情ヲ深カラシムヘキハ勿論殊ニ太平洋沿岸地方ニ於ケル從來
ノ人種的惡感情ハ之カ為メ大ニ緩和減却セラレノ好果ヲ奏スヘキハ
疑ナキ我ト確信被致ス右御含込内聽ニ達ニ度々敬具
明治二十八年八月十日

王桑港

二等領事神屋三郎

外務次官原敬殿

5-0176

0274

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

機密第四六号

日清戦争終結ノ後ハ帝國政府ニ於テ一層軍備ヲ擴張スルナラ
トハ風聞各國ニ傳ハリ其後舊米國並ニ英國ノ海造船所及製
鉄所等ヨリ追々代表者ヲ本邦ニ遣シ夫レ注文相受度与申出
ル由ノ處尔来右ハ舊國一般ノ注目スル處トナリ新造セラルキ軍
艦ノ全部若クハ一部ニテモ米國ニ於テ之ヲ引受クベシトハ強ニ
舊米ノ興隆ノ如ク相成リ造船又ハ製鉄ニ關係ナキ者迄モ本邦
ノニ遭遇スル毎ニ帝國政府ハ幾艘ノ軍艦ヲ舊國ニ注文スル様リ
ナルヤヲ尋ヌル位ニ至ルコト然レ聞ク處ニヨレハ米國代表者等ノ
陳述其宜シキヲ得ナリシカ又ハ其筋ニ於テ舊國ノ造船製鉄術

ニ信用薄キカ故ニ軍艦ヲ舊國ニ注文ノ義ハ稍覺束ナキ様子ニテ
右代表者中帰来致シタル者モ有之ヤニ承知致シ軍艦新造ノ義
ハ素ヨリ本官ノ關係スヘキ事柄ニ至ルニ偏ニ其筋ノ裁定ニ任スヘキ
モノニ有之ルハ本件ニ關スル舊國一般ノ意向並ニ舊國ニテ注文
ヲ受ケルト又ケルトヨリ生スル國民ノ感情ハ本友ノ職分ニ於テ充分
觀察ヲ要スヘキモノト存ス本官ノ見ル處ニテハ我國カ古米國ニ
テ修メテヨリ以來數十年ニ及ヒタリト雖モ此間我國ニ對スル好意終
始一轍更ニ漸リタルニ至ルコト殊ニ日清戦争以來ハ一層一般ノ敬愛ヲ
益シ政府ニ在テハ不少便宜ト補助ヲ我政府ニ與ヘルニ在テハ演
説ニ新聞ニ我國ヲ賞賛シテ録ス處アラサリモ等々直接間接ニ

帝國ニ利益ノ興ハタルト莫ク存ス然ルニ今日強ク米國ノ興論
迄成リタル軍艦新造ノ義ニ付帝國政府ニ於テ全ク米國ノ手ヲ離
レ兼テ米國一般ノ嫌疑スル英國ニ向テ新軍艦ノ製造ヲ盡ク注文
相成多様ノイアリテハ當國ノ感情ヲ損スルト不少隨テ之ヨリ生ズル
不利益ハ我政府ニ於テモ豫メ考案ノ内ニ法會ニ置相成多下緊要
ト存ス尤モ軍艦ハ餘ノ品物ト異リ護國ノ要具ニ有之タニ付慢
ニ兩國ノ交際ニミ拘泥セス各國ニ於テ製造シ得ルモノニ就キ其善
良ナルヲ執テ之ヲ我ニ供スヘキハ勿論ノ義ニ有之タヘ日本官カ聞クハ
ニシレハ當米國ハ造船製鋼ノ技術ニ於テモ決テ他國ニ劣ラサル由ニ有
之當國カ最近六七年間ニ為シタル造船製鋼ノ進歩ハ世界各國

ノ驚視スル處ニシテ近頃出来シタル戰鬥艦インゲヤナ巡洋艦ニユー、ヨ
ーク、ミニアポリス大西洋郵便船セントハリス等ハ各種ノ艦船ニ就キ
之ヲ比較スルモ勝ルヲアルモ決シテ一步ヲ讓ラサル最良ノ艦船ノミナラス英
佛等ニ於テ近頃製造シタル艦船ハ往々不完全ノ結果ヲ見タルニテア
ルモ米國ニ於テハ未タ一艘タモ之ナシトノミ有之隨テ我政府カ米國ヲ措
テ英國ニ注文セントスルヲ見テ米國人ハ既ニ不思議ノ想ヲ為シ本邦ノ
造船家ヲ目シテ英國ノ諸會社ト私アルカ如クニ見做シタル新聞通
信者モアル位ニ有之タ右ハ素ヨリ一箇ノ臆測ニ過キヌ及ハ我我國カ
當國造船術ノ進歩ヲ承認セサルヲ遺憾トシタタ少不快ノ念ヲ懷キ
居ル有様ノ一斑ヲ知ルニ足ルクト存ス

然ルニ數日前或ハ人ノ招待ニヨリ晚餐ニ赴キ實際海軍大臣ハバート
氏モ同席ニテ談偶々本件ニ移リ及ニ付本官ハ好機會ナリト存考有
本件ニ關スル當國ノ誤解ト帝國ノ地位ヲ説明シ帝國政府ニ於テ特
ニ英國ニ注文スヘキ因縁ナキハ素ヨリ造船技術師ニ於テモ殊更ニ米國
ヲ存テ英國ヲ親クノ理由ナシト雖モ我技師ハ多ク英國ニ留學シテ英
國ノ技術ヲ目撃シタルハ故ニ全ク自等ノ認識セサル米國ニ依ルヨリモ
先ツ英國ヲ擇フハ自然ノ理ニ有ク或ハ我技師ヲ評シテ英國會社
ト私アルカ如クニ見做スハ有る數想像説ナレ一方ニ於テ當國造船
技術ノ進歩カ未タ充分本邦ニ知ラレカモ亦本誤解ノ原因タルニ付
此際米國ノ進歩ヲ英佛等ノ各國ニ比シ本邦造船家ノ考ニ供

スルニ必要ナルヘキ旨ヲ陳述致ス處海軍大臣モ至極同意ニテ早速
主務官ニ命シ各國トノ對照意見ヲ本官迄可送与ヲ約セラシ且同
大臣ノ紹介ニヨリ海軍省機關總監メルビル氏並ニ造船總監トウチボン
氏ニ面會シ面談ニ及ヒ置タルニ兩三日前別紙甲乙号ノ通り夫々接到
致ス

右甲乙号記載ノ事項ハ素ヨリ本官職責外ニ涉リ何分ノ批評ヲ下
スルヲ得サルノミナラス當國造船術ノ進歩ニ就テハ當公使館附官
岡海軍少佐ヨリ既ニ其筋ハ詳細報告致居タリ今更茲ニ
喋ルルハ不要ニ屬シ及ヒ右甲乙ノ取調ヲ為シタルセフチボン氏及メ
ルビル氏ノ其道ニ於テ予識經驗共ニ當國第一流ノ人物ニ付

米五



西氏ノ意見ハ其筋ニ於テモ充分信ヲ措カシテ何等不都合
無クモノト存ス付茲ニ同別紙並ニ附屬書類共不殘差出ス旨
其筋ニ於テ精査有クモ様既取計相成度也

本件ニ關スル舊國人ノ感覺ハ前述ノ通りニ有之果シテ造船
製鋼ノ術ニ於テ歐亞諸國ニ劣ラサルモノトスルハ我政府ニ於テモ
特ニ考慮相成ク様致度茲ニ愚見一通リ及具申ス敬具
明治二十八年十一月二十三日

在米

特命全權公使栗野慎一郎

外務大臣臨時代理文部大臣侯爵西園寺公望殿

機密第十六号

過日當國外務省通高局長「アト」氏ニ面会致事節今般帝國政府ハ歐洲ハ
軍艦製造注文已成此件有突然話出シ佛國政府ハ東洋ニ對シテニ実
着ナル通商擴充的ノ政略ヲ持スルニ日本政府ニ於テ若シ佛國製造所ハ
軍艦注文已成ルハ佛國政府ハ喜ンテ應分ノ助力可致旨談話有之
猶又元在系佛國公使館附陸軍大尉「アケ」氏今般私用ニテ本邦ハ渡
航ニ付當國地中海「ホル」ニシヤ「ナ」会社ヨリ軍艦注文ニ関シテ依頼ノ筋
ニ有之其ニ付同人出案前海軍大臣ハ面話致事趣ホモ本人ヨリ及申
間右西件為決參考申進候敬具
明治二十六年十月廿八日在佛特命全權公使曾祚恭助

外務大臣陸奥宗光殿

送テ軍艦注文ノ事ハ本官不案内ノ旨申置候事亦申添也

機密第十七号

我國ニ於テ今面軍艦數隻ヲ製造スト風説ニ係リ當佛國ノ感情ノ件

今面我國軍艦數隻ヲ製造スルノ風説當地ニ達セシ以來政府初メ「クルゾ」
其他諸製造家ニ追日ニ未館シテ異口同音ニ曰ク今面ノ軍艦製造行
テ其原料ニアレ其製作ニアレ英又ハ獨リニ日本政府ヨリ注文之レナキ
様尽カ致シ兵レ度シト是レ全ク高業上ノ競争ニ帰スルト雖モ軍
艦製造ノ注文ノ如キハ大ニ外交上ヲ察セサル可ラサル一今更喋マ
ラ要セス既ニ前轍モ之レアリタルコト故今面ハ何卒後日ニ於テ紛
々不平ノ生ヒサル様致度取之ヲ換言スレハ其約束ヲ嚴重ニシテ
或ハ原料ノ買上ヲ各國間ノ競争入札ニ付シ或ハ幾艘ノ製造ヲ

英ニ幾艘ノ製造ヲ仲及ヒ獨國ニ於テ競争入札ニ付スルカ如キ取置
ヲ執ラシテ様致度將來ノ為メ茲ニ德ノ右申進ヲ敬具

明治二十八年十月十日

在佛國特命全權公使曾孫若助

外務大臣臨時代理

文部大臣後青田寺公望殿

Petersburg, Jan. 15. '96.

Rec'd " 16. "

Saionji,

Tokio.

在佛公使ハ、××××××××

×××××××××××××××

Regarding tariff it is very difficult to obtain the consent of French Government. An authentic source states that in spite of earnest desire of French Minister for Foreign Affairs to conclude treaty as soon as possible Minister of Commerce who cares for nothing but commercial interest insists not to give us definite answer until the decision of Japanese Government in view of the construction of men of war will be known therefore of French Government be assured of one at least of shipbuilding orders

I think it will be easy to conclude treaty otherwise it is very difficult to come to understanding without making concessions. I have therefore the necessity to know the exact attitude of Japanese Government on the question of shipbuilding orders.

Nishi

Petersburg. Jan. 26. '96.

Rec'd " 27. "

Saionji,
Tokio.

在佛公使ニ××××××××
××××××××××××××

I ask for immediate instructions
on this as well as my telegram
upon which will depend destiny of
the negotiations.

Nishi

5-0176

0202

親展送第四二八号

本年度以降製造相成ハキ帝國軍艦教艘ノ内ニ艦ハ獨逸國製工場
ニ注文成度旨今般別紙寫之通在伯林青木公使ヨリ申出ノ次第有
之次右ハ寫ト貴省ニ於テ法取調ノ上貴大臣ノ兩意見詳細法通
知書成ニ様致度此段及法照会也

明治二十六年五月十日

陸奥外務大臣

西郷海軍大臣宛

5-0176

0203

別紙

(上畧)獨逸帝ハ我帝國ノ軍艦ヲ獨逸ニ於テ製造セシメ度希望セラレ先
年本官外務大臣タリシ時ハ「フオン、ホルレーバ」氏其他ヨリ屢々間接
ナル勸誘ニ接キ事モ有之キ月幸ニ本年度以降數箇ノ軍艦
造製造ホ成キ事決定ホ成後間其二艦ハ當國ノ工場ニ課シテ製
造セシメ間接ニ獨皇及其政府ノ歡心ヲ博スル方甚可然存申候
後ノ法承知モ可有之獨國ニ於テハ十四五年以降軍艦製造ノ
技工頗ル發達シ何等巨大ノ鋼鉄艦モ容易ニ之ヲ製造スルノミ
ナラス汽機ノ精巧ニ関シテハ英人ノ技エヲ超越シ現ニ大西洋ニ
於テ競争シ速力第一等級ヲ占ムル郵船「ビスマルク」号ハ獨逸

ノ製造ニ係リ其程ノ事實有之候間此段法合ノ上可然法幹
旋有之度企望ノ至ニ有之候云々

明治二十六年三月廿七日

在伯林特命全權公使子爵青木周藏

外務大臣陸奥宗光殿

Mutsu,
Tokio.

Not to consider German
ship builders as competitors in
building new iron-clad gives ill-
feeling to German Government.

在独公使

October 5. 1893.

introduction to Admiral ~~von~~ ^{von} Germania
which has built *Wörth* and *Kaiserin*
Augusta is preferable.

Nissi

Petersburg 9, 25, '95.

Rec'd " 26. "

Saionji,

Tokio.

在独公使 139- Please answer my last telegram as soon as possible; if Japan has decided to increase her fleet as steadily reported in European press it is a good stroke of diplomacy at this juncture to take no notice of the part played by Germany in triple intervention and to order one or two vessels to Germany. You are aware that the uncompromising attitude of Germany on treaty revision has been and still is largely due to the fact that we have persistently ignored the Emperor of Germany's desire to build ship for us; although I have given representative of Vulcan letter of

機密第二十五号

伊國軍艦ウアリス号ノ件

(上文畧)

帝國政府ニ於テウアリス号愈法買入相成否ヤハ元ヨリ其筋ノ意見次第ニ有之矣。要テ般瓜生大佐造船所等ニ視テ上談話ノ趣ニ據レバウアリス号ノ如キハ設計ヲ始メ材料及製造等ニ至ル迄十分満足ニ有之趣ニ付テハ若シ代價等ノ為メ同号法買入不相成其前ハ帝國政府ニ於テ別ニ新規ノ巡洋艦法注文相成其ハ代價ノ一点ニ於テモ他國ニ比シ必ス低廉ニ可有之被存其次第ハウアリス号ノ事ニ付拙官ヨリ造船会社ノ代表者ニ談話致其折本艦ニ付テハ何カ行掛ノ事情

ニテモ可有之被本艦ノ代價ヲ減却其義ハ何分難被行得共

但十六

万ハ其ハ減却スハキ旨申出共

若シ新艦注文相成其ハ十分恰好ニ出来共

様可致旨申居共其他當國海軍大臣モ帝國政府ノ為メ十分好意ヲ表彰セントスルノ意向ニ有之今般瓜生大佐ノ取調事務ニ付テモ萬般助力可致様子ニ有之其間其辺ハ閣下ニモ可然其旨置相成ウアレノ号法買入相成共新艦法注文相成共何レニテモ其一方実行共成共義共叶共ハ當國ニハ帝國政府ノ好意ヲ博セ共其製造ニ注意スハキハ勿論ニ有之隨テ兩國交誼上ニ於テモ一收ノ補益可有之被存共此段其申共敬具

明治三十八年十月廿一日

在伊特命全權公使高平小五郎

外務大臣臨時代理文部大臣侯爵野園寺公望殿

Pro-memoria

Orlando & Bro are one of the oldest Italian firms in ship-building and one of the most important too. The fact that the Italian Government entrusted their dockyards the construction of sixteen warships is an eloquent proof of the high praise and consideration they enjoy in Italy. Among their largest constructions we may cite the "Lepanto" and among the most modern and effective the cruiser "Umbria" known in these waters where she has been cruising till three or four months ago.

The cruiser "Varesa" and the auxiliary ship "T. Florio" are now in course of construction in their dockyards at Leghorn with two

other cruisers ordered from Morocco and from Portugal.

These military dockyards, which fully equipped the war ships constructed there for the Italian Navy, supply engines of any description and the most powerful.

The firm has undertaken also the construction for Italy of boilers with tubes, system Lagrafel d'Allest, so that she may supply modern apparatus answering to the most severe requisites for developing strength and obtaining the greatest levity and the most considerable economy of combustible.

Aide Memoire

Dans l'intérêt de l'industrie de son Pays, le Ministre d'Italie a déjà eu l'honneur de signaler au Gouvernement Japonais la possibilité et la convenance de commander d'excellents bateaux de guerre aux chantiers privés Italiens pour le cas où le Gouvernement Japonais aurait l'intention de donner des commandes de ce genre à l'étranger.

Il a même eu de bien interpréter la pensée de Son Gouvernement en faisant ressortir l'excellent effet qu'une pareille commande donnée en Italie par le Japon produirait sur l'opinion publique Italienne.

Le Ministre d'Italie a dans ce but déjà signalé et recommandé la Maison Orlando de Livourne qui à cette occasion, a envoyé ici

comme son représentant le commandant Armani.

Étant maintenant informé qu'une autre maison Italienne des plus importantes, la Maison Orlando de Livourne, s'est directement, elle aussi, adressée au Gouvernement Japonais pour être prise, le cas échéant, en considération, le Ministre d'Italie s'empresse de signaler et recommander aussi cette grande Maison qui a son actif seize bateaux de guerre déjà sortis de ces chantiers ainsi qu'il résulte du promemoria ci-joint.

機密第二十八号 伊國軍艦事務終結ノ件

過般以来屢々電信及書信ヲ以テ具報スルイ國軍艦ウレリス号ノ件
ニ付テハ去月廿七日海軍大臣ヨリ電信ヲ以テ談艦ハ竣工ノ時期二十二月
ノ久ミキニ旦リ即時ノ用ニ供スル能ハサル為ノ其購求ヲ見合テ趣通達
有之ニ付拙官ハ直ニ當府居住ナルラド造船会社代理人ヲ呼出シ
其旨ヲ達示致置瓜生海軍大佐ニ其翌日ヲ以テ巴里府ニ歸任ス成
其後拙官ハ外務大臣ニ面会ノ折ヲ以テ右ノ趣ヲ内話致シ當司大臣ハ伊國
ニ於テ目下現役中ノ軍艦ヲ貴國ノ用ニ供スル能ハサルハ遺憾ニ有之旨挨拶
有之又海軍大臣ニ面晤ノ節ハ貴國ノ為ニ一事ヲ分担スルヲ得サルハ残念ナ
リト返答有之由程ニテ本件ハ先ツ円滑的ノ結局ニ相成ル間左様也

悉有之度ハ唯海軍大臣ハ語次當國造船事業ノ事ニ話及成現今
伊太利ニ於テ右ガラルラドノ外ニ箇ノ造船会社有之其内セリノラニナルド
ナルモノハ最モ盛大ニ有之者得共孰レモ其工事帯ニ繁忙ニ有之義ニ
モアラサレハ他日貴國ニ於テ新艦製造ノ際ニハ若シ當國ハ注文お成
み様ノ多お討みフノ自公等モお當ノ区域内ニ於テ可成丈助力可致
旨懇話有之且ガラルラド自自モ其后来訪ノ上ウアリス号ハ機関火砲
等政府ヨリ別々ニ各製造者ト特約お成ルニ付同社ハ其約定ノ價格ト
自己ノ負担ニ属スル船体等ノ費額ヲ合計シテ船價ヲお定メテ自
自然高價ニお成ル得共若シ最初ヨリ自公一手ニテ一切ノ約定ヲ引
受ル義ナラハ余程低廉ニ仕上リ可申ニ付可成我海軍ノ為ノ事

業担当致度旨申出依テ拙官ハ海軍大臣ニ對シテモオラルニドニ對
シテモ我政府ノ意向ヲ告白スル能ハサレモ若シ新艦注文等ノ事
有之節ハ競争的入札ニ相成者哉モ難計旨申述及露何等ノ
手段ニ於テモ當國ニ於テ一工事ヲ担当セントスルノ意氣込ニ有之
様お見得在間詰リ何事予自國ノ伎倆ヲ表示シテ漸次得意
ヲ求メントスルノ底意モ可有之被存在之月工業上十分注意ヲ加フハ
キハ勿論ノ事ニ可有之其就テハ從前ノ如ク當館附海軍武官派
遣及成尚巨細ノ事情詳查お成者ハ、軍艦製造上ノ義ヲ存意外
ノ便益ヲ奈見被致者事モ可有之被存在
右具申致在敬具

明治二十八年十月十日在伊

特命全權公使高平小五郎

外務大臣臨時代理佐野園寺公望殿

電送三一六号

Nissi,

Petersburg.

51. Regarding order of war ships for which you have frequently referred to me 海軍部 will despatch a commission to the country where you reside thereby to invite tenders from certain private firms. Still it is impossible at present to state numbers and types of ships. The above is merely for your confidential information. Transmit foregoing to 在米公使, 在独公使 and 在佛公使.

Sent April 21 '96.

Mutsu.

原書佛國ノ部ニヤリ

5-0176

0292

内閣通知
法平者函(号)

大臣印

次官

機密
第八六二番

廿九年七月廿三日受 菅 政務局中田 (但し長内閣府に送付)
通商局 (但し長内閣府に送付)
秘書官

公信第三九號

帝國新造軍艦ニ関スル件

帝國政府ニ於テ新造ノ軍艦ヲ当地製
鉄所ニ注文スル後ニ關シテ一乘ヲ及
内申事ニ知令般其條ニ於テ會ニ二隻
ノ軍艦ヲ米回ニ於テ報告スルノ内定
ルル趣ニテ數日前ヨリ我海軍士官者
地ニ出立製鉄ノ関スル諸般ノ事項調査
中ニ有之、右軍艦ニ果シテ乘港費府
何レノ製鉄所ニ注文スルカ其利害得失
ハ固ヨリ種々調査ノ結果ニ依ルニキモ一
シテ敢テ他ノ容喙スルノ限リニ止ムル共
此ニ乘港ニ於テ製鉄スルニモ費府ニ於テ

在東港日本領事館

製鉄スルニモ其利害ノ点ニ於テ甚シク種
庭トテ協合スルカ宜ニ當回ニ對テ改更
上乗港ニ於テ製鉄セウレンヲ偏ニカ
望致ル 其理由ハ米回ノ各地方中其
本邦ニ接近シ且ツ本邦人ノ數モ多ク在
留セムルニ當乘港ニシテ我在留人中ニ
玉石相混々セシヲ以テ本邦人ニ對シテ
感懐ヲ抱中居ルモノモ亦少カラザルカ
日本品排斥論ト共ニ往々日本人排斥ノ
論ヲ唱道スルモノ有之、ハ實ニ遺憾ノ次
ノ事ニシテ近來其弊ハ殆ク東部各州ハ
モ波及セシトスルノ状カク沈シ居ル際
山縣大使ヲ当地ヲ經由セシムルヤ各

5-0176

十八 我勝國ノ將官トシテ滿港之ヲ款也
 乃ト山ノ時ニ幾分カ素國人ニ對スル旨傳
 毛相初ウ中居白知ケ程同皇公復并シ固田
 早山山本若ノ諸名士為港ニ常在中若
 港知者ノ紳士若ト往復交際セシムルニ
 付テ一層親密ノ情ヲ増
 し隨ニ時年々噴々たりシ日本品排斥
 論ナトニ其地方ニ於テ一山本之ヲ商リテ
 ナルニ多クシクハ其國ノ為ノ甚ク切スヘ
 徴候ト存トシ除若シ其思ニ於テ素國
 軍艦ヲ製製造スルカ如クアウハ上下一般
 ニ素國人ニ對スル感情モ一變シテ素國
 ノ交際上少カクサレ神益アルト確信シ
 在來港日本領事館

右為素國考及具申候為
 以以ニナメ年七月了

在來港

ニ若總事 津屋三郎



外務省官系敬啟

5-0176



再

三
二
七
七

明治廿九年七月廿八日起草
同廿九年七月廿八日發遣

土佐

此

海軍省
中田

中田

伊藤内閣海軍大臣

西ノ島司令官

西ノ島司令官

貴方新送可船一箇之件之在學艦神

長ニ事知ラレヨク其由被先及ルナリ

外務省

美道之

5-0176

政務局長

次官

大臣

Petersburg Aug. 1 '96 6 p.m.

Rec'd " 2 " 6-10 "

Saiouji,
Tokio.

在米公使 5. Prices tendered
by American ship-builders for
constructing new cruisers being much
in excess of an estimate of Japanese
Government Naval officers are
now under instruction of 海軍省
negotiating with them reduction in
the price although some reduction
will be made it cannot be expected
that the Companies would reduce
so much as exceeds estimate as
however it was ——— considerations
of high politics rather than of the
efficiency of American yards and
of low price that the Japanese
Government has come to order to

電受第五七七號

一語不明

this country I hope Japanese
Government will give the matter
further consideration and devise
some means to meet the require-
ments of the case. To abandon at
this moment the idea of construct-
ing in this country after having taken
tenders and negotiated reduction in the price
is very undesirable and will cause
feeling even worse than invitation
had not been extended.

Ohmayer.

電受第 號

5-0176

0296

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

明治九年八月三日起草
同日八月八日發遣

土佐

海軍省

次官
中野

在任

送集一八〇號

送集三六號

伊藤内閣總理大臣殿

外務大臣殿

駐米公使館長殿

公使館長殿

外務省

加賀美進閣下

(子成美進閣下)

5-0176

0290

昨日機密通第一八〇号より御達付相成り米
國之軍艦注文ノ件ニ關スル報告ニ海軍大臣
ニ御通牒相成り或自然猶ホ其儀無クとも
至急詔寫一通同大臣ノ御通知相成り極致
度此段為念申進也

明治二十九年八月四日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

外務大臣侯爵西園寺公望殿

内閣

明治
二十
八年
八月
十四
日
起草
發遣

出
發

外務省
印

羊
卷
六

在
美
之
外
務
省
印
信
件
用
紙
一
冊
送
付
可
繼
任
文
件
用
紙
一
冊
送
付

同
下
之
道
書
一
冊
送
付
可
繼
任
文
件
用
紙
一
冊
送
付

外
務
省

5-0176



大臣
印

小村

Ohmura
 Petersburg

在米公使 21. Regarding your telegram to Inasouch as the matter ^{involves} through consideration of high politics as you state I ^{am doing} have done my ^{utmost} best to accomplish the object but there being ^{no} ~~any~~ ^{to meet excess} ~~means~~ appropriation the only means available is to secure reduction in ^{the} price and I desire you to make ^{best} utmost efforts to that end and telegraph me the result.

Saionji

and as it is impossible to consider the matter further before leaving how far reduction could be affected.

電送第五七一號

620
own 700000 yen each

Sent Aug. 6 1896.

大臣
印

主管政務局
中田

Petersburg Aug. 23. 1896. 11.48 am.

Rec'd " 24. " 7. - pm

Saionji,
 Tokio.

在米公使 6. Regarding the construction of men-of-war shipbuilding companies made considerable reductions exact amount of which 海軍省 fully aware I hope Japanese Government will adhere to the first determination and if possible order (?) one man-of-war to each company respectively.

See 機密第一八号信 dated 八月八日.

Kishi

電受第六三一號

38 words
K.H.

事務局長より私信にて送る

5-0176

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

明治 年 月 日 起草
同 廿九年八月廿五日 發遣

主 任

政務司 中田

手 印

伊藤海軍大臣 閣下 外務大臣

お名作の筆名(中略)の件は、何れも、

由き、御座るに、此の旨を、皇太后に、

書留せしむる、事、お教へ、

外務省

申す、この極密の事、

接し、

中田

(以下、

海軍省御用

一九一九年九月三日

海軍省

中田

大臣 望

次官 光

八五〇

概算第一号

書國海造造船監督官ノ需ニ應シテ片ラテ

フヤ、クランプ造船會社並ニ、東港エニオン、ア

イオン、ラコ、クス、ス、差出し、巡洋艦二隻、

設計並ニ、請負價格ノ入札ハ、去ル二十日當

館ニ於テ、本官立合之ヲ開封致候後、兩會

社ノ見積ハ、總計ニ於テ左ノ通りニ有之候

一隻代

二隻代

クランプ 一六八五、〇〇〇 三三三、〇〇〇

エニオン、ラコ、クス、一六九五、〇〇〇 三三三、〇〇〇

右價格ハ、海軍省、於テ當由ニ、結果中

ニ見接リタル價格ト多ク、輕度アリテ一隻

ニ付凡ソ五十餘万円ノ差違有之趣、此ハ當

在米國日本公使館

局者ニ於テモ、造船費ノ支出上、頗ル苦心可

致ト存テ、去電報ヲ以テ已ニ、上申せ

如ク書國ニ、軍艦ヲ注文せし、トスルニ至リ

タルハ、素其價ノ廉ナルカ為メ、エラス又、

街ノ他國ニ、卓越シタルカ故ニ、モアラス帝國

政府ニ於テハ、價ノ不廉ナルヲ遺憾ノ上、

高尙ナル考業アリ、之ヲ書國ニ注文スル

通書ナリト認メタルカ故ナル、ベケレハ、

ノ多ク、サレヨリ、テ之カ諸君ヲ決定ス、

アラサルニ似タリ、加之ナラス、入札開封後、

今日ニ至リ、注文方ヲ取消ス、カハ、

口初ヨリ、入札セシ、サレノ勝レルニ、

候間、帝國政府ニ於テハ、兩會社ノ提供

5-0176

討し篤ト懸考ヲ加ふるに候様致度候
抑モ帝國政府ニ於テ新造可相成軍艦
ノ全部若クハ一部ヲ當國ニ於テ製造スル製
造スルニ當國一取ノ樂論ニシテ之ヲ注
文スルトヤルルヨリ當國民ノ熱心ニ生スル
感情ハ概ニ於テ之ヲ種々スルニ必要ナルハ
昨年ノ首大旨付職密ヲ四六号ヲ以テ奉旨
前経室所公使ヨリ上申及於通リニテ現ニ
當國有力ノ各新聞ハ今取入れ開封ノ
事ヲ聞キ帝國政府カ末士送取杖術ノ
進歩ヲ承認スルニ至リタルヲ喜ブ者詎載
致候位ニ付帝國政府ニ於テ飽迄モ當
物ノ決定ヲ維持シ當國ニ於テ之ヲ裁可ス

在米國日本公使館

行相成軍艦ノ事ト存テ且又兩會社中何
ハ日文可相成ヤト曰シテ其筋ニ於テ中議
可相成義ト存候ハ此双方ノ便於見ルニ
レモ其別大層存之且フ其術ノ互ニ於テモ
其此ノ間ニ便於受之抑モハ帝國政府ニ於
テハ向シテ當國ノ郵政ニ碍障シ當國東
西ニ於テ若一隻舟ヲ行送相成候様致度ト
存候將又兩會社カ提出シタル送取費ハ前
記ノ通り帝國政府ノ見候ト著シキ其連有
之候一以當國政府ノ為メ製造シタル諸巡
洋艦ノ價格ト之ヲ比較スルニ甚シキ高價
トモ見ス其身若野艦ノ送取費ニ對照スルモ
強シト曰候ニ有之候ニ付テハ兩會社ニ於テ

ハ那常ノ概也ヲ申述スルモノトモ相見ハ不使
間帝國政府ニ於テハ寫ト此モモ伊合ニ
カレ候様致度候モ今更ニ同文ノ義ハ當不
送承賜ノ名譽ニモ相見レ成續ニ於テハ
白波進ノ文ヲモ受テルニ可相成ヤモ
取斗ニ付此等ノ事ハ此等ノ事ヲ相適ト申
カ見様高ヨリ誠意有致ノ事ヲ相適ト申
ヤレ存外要元ニ今更ニ入札徴収ノ事ヲ申
前記ノ通り高商ノ考案ニ出テル此等ノ事
有之ルニ付テハ此等ノ事ハ一應思見上
申致氏事奉官ノ職ト存シ在申及外
分ニ有之候間帝國政府ニ於テ可相成
誠心候様致度候

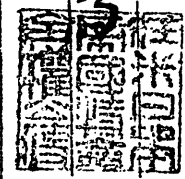
在米國日本公使館

右取具申出取具

明治五年四月廿日

奉命駐劄

時令全權公使星亨



外務大臣候爵西園寺公望殿



明治廿九年九月五日 起草
廿九年九月五日 發遣

主任

中田

中田

親展

西國事務大臣

米島、中野、佐々木、山本、大塚、小島、

星、公使、参事、中野、山本、大塚、小島、

本件、通電、外務省

外務省

下級、参事、中野、山本、大塚、小島、

備、参事、中野、山本、大塚、小島、

(中野、山本、大塚、小島、)

参事、中野、山本、大塚、小島、

5-0176

0305

海軍省 四會 〇〇

廿九日九時二十三日 皇 菅 政務局 中田

極密 十九日

大臣 次官

海軍省に於て新造の巡洋艦二隻に對する設計並に諸員價格納入札の裏に當る拜ラデル拜ヤクランプロ造船社並に柔佛エニオン、アイオン、ウオークスコリ之ヲ徵収し當該に於て本官立存之ヲ密封改ハ其右價格ハ海軍省に豫算ト非常ノ徑途有之ハオラシク更ニ減額ノ高價ヲ兩社に改メシタルニ今般兩社に軍艦引收期限延長其他數箇ノ條件に隨ヒ更ニ減額申出ラタス

在米國日本公使館

オ一入札	一六八五〇〇〇	三三三三二〇〇〇	
クランプロ	オ二入札	一四二〇〇〇〇	二七七〇〇〇〇
差引減額	二六五〇〇〇	五八二〇〇〇	
オ一入札	一六九五〇〇〇	三三三三〇〇〇〇	
アイオン	オ二入札	一四四二〇〇〇	二九六四〇〇〇〇
ウオークス	差引減額	二五三〇〇〇	四〇六〇〇〇

今之ヲ我豫算額に比較スルニ高多少ノ起
 品一有之ニ反兩社に立一更ニ付既ニ二
 十萬三千拜ヨリ二十九萬一千拜減額シメシ
 此ノ上ニ偏以上減額モムルノ到底至難
 ノ業トナシ

抑モ軍艦ヲ當ニ注文ノ我ニ交シテ本官

先キ：電報中五号並：極意中十八号
 以テ思見中進リ次第モ之且ツ貴大臣若
 下ノ中二十一号電報ニモ見ハ通リ拒ニ帝
 必政府ニ於テ之ヲ政治ノ高尚ナルヲ求メ
 リ之ヲ當ニ注文セントスルニモカレトシ一旦
 本件解決ノ上ニ以テ是ノ旨ヲ貫徹セシムル
 ヲ改メテ事案妥ニ之ヲ結ス今四角度
 ノ入札ニ於テ各社共拒ノ如キ巨款ニ成ル
 ヲ為シタルヲ以上ニ大抵ノ支障ノ之ヲ差
 繰リ當ニ注文ノ義立行ニ成ラズ事ニ以テ之
 成ラズ事案妥ニ之ヲ結ス今四角度
 將又修補ノ点アリ之ヲ論ズ中ニ二隻共之ヲ
 ニニオレバイオレバウオータニ注文スル最モ不利益
 在米國日本公使館
 ニシテ二隻共之ヲラフテ先般ノ社ニ注文ス
 ルノ最モ利益ニ成ラズ之ヲ拒ニ軍艦ニ注文
 二隻ニ素前時ノ理由アリテ之ヲ拒ニ之ヲ注
 二付價格ニ於テ甚キニ差アリ之ヲ注文スル
 ハ東西ノ各社ニ注文スルニ方古初ノ如
 昔ノ如クヒノ中ニ當今之ヲ積算スルニ二隻
 共クラフテ注文スルニ甚キ社ニ二隻完
 注文スルニ其價ニ於テ僅ニ九万二千丹ナリ
 ニ於テ之ニ付ニ帝ニ政府ニ於テ之ヲ注文ス
 社ニ一隻完ニ注文スルニ極意中
 右ニ以テ電報ノ次第モ之ヲ注文スルニ極意中
 票及是ノ見ルニ本行ノ思見及
 且中ノ敬具



明治十九年八月八日

特命全權公使星亨
外務省候爵西園寺公望殿



在米國日本公使館

5-0176

0300

浄書名 校 原 治 永 永

明治廿九年十月二日 起申
同 廿九年十月二日 發遣

主任

政務局長 中田

親展

西郷海軍大臣宛 外務大臣

米國へ軍艦注文、件ニ関シ在四國星公使

ヨリ貝申、趣へ具表、及由通牒置申處

尚又右ニ付別紙、通四公使ヨリ申越申

外務省

右右字及由送付也

(別紙機密ヲ十九字ナリ)

送附第五號

5-0176

0309

主
管
政
務
局

次
官

大
臣

中
田

Petersburg Oct. 2 '96 2-22 p.m.

Rice 5 10 a.m.

Okuma,

Tokio.

在米公使 10. Telegraph for
my information what may be the
probable decision of the Japanese
Government about constructing
men of war in this country. It
is necessary for me to be informed
of it when so much uncertainties
prevail here both in politics and
trade.

Chernaye.

電受第七四號
32
精

5-0176

0310

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

電信文
明治二十九年十月一日
東京

東京

在米

大隈外務大臣

星公使

第一の号

当主ニテ軍艦ヲ製造スルコトニ関シ日本政府

ハ如何ナル決定ヲ為ラシムベキヤ^{本使}得ノ為ノ電報

アリタル^{本使}当主目下政治ニ業共ニ何ト帰着

スベキヤ判明セザル^{本使}折衝^{本使}際ニ本使心得居ルコト

外務省

極ニ必要ナリ

5-0176

至急
封

明治 年 月 日
同 世 九 年 十 月 二 日 發 遣

主任

政務局中田

封

親展

大隈外務大臣

西御海軍大臣

海軍大臣 於 予 一 等 艦 制 船 隻 之 義 兵 関 心 外

海軍大臣 於 予 一 等 艦 制 船 隻 之 義 兵 関 心 外

之 事 予 亦 不 敢 不 速 復 答 也 外 務 省

外務省

西御海軍大臣 於 予 一 等 艦 制 船 隻 之 義 兵 関 心 外

封

次官

5-0176

廿九年十月六日接受 主官 政務局 中田

大臣

次官

第一二七號

官房第四三五号二

軍國ノ軍艦注文、海軍本部國稅公使具
申書ニ寫紙添送第四五號ヲ以テ送
付カサレタリ。當否ニテ意見在
テ、果シテ同公使ノ由ニ送付セラル
ル

一九二九年十月六日

海軍大臣 西郷從道



外務大臣 石井 大隈 主官 殿

初メケラムプ及「ユニオン」兩船社ヲ提出スル
積貨代價、非常ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
海軍

超過スルコト少ナカラサルニシテ、造込益額亦
亦ニ兩船社ノ積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
タリ。然レニ、兩船社ノ積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
積貨額ニ比シ、大ニ高價ナルヲ以テ、積貨額上ノ
點ヨリスルニ、本國ニ積貨スルノ不利ナルニ
テ、積貨後、積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
入札ヲ求ムルニ至リ、積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
入札ヲ求ムルニ至リ、積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
ルヲ思ヒ、積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
文ニシテ、積貨額ノ高價ニシテ、積貨額ヲ
西船社 (ケラムプ及ユニオン) 二各一隻、積貨額
スルコトヲ報告セラルト雖モ、兩船社ノ積貨額

5-0176

ストキハ豫算不足愈々多額ニモテ
 途ナキノモナラス其旨懸隔スルヲ以テ
 此等ノ事ハ西軍ニ能クモサレハカラス
 下我海軍擴張ノ事業多端ニモテ各
 方計造部部ノモテ技術者ノ不足ヲ憂フル
 際ハ且ニ此等ノ諸君ノ交リハナク
 結ハス且ニ此等ノ諸君ノ交リハナク
 之ノ力ヲ費用ヲ支ヘスルコト結ハス
 且西軍社提出ノ計畫圖案等ヲ審査スル
 技術者ヲ西軍社提出ノ技術者ヲ
 ノ少額ニモテ採用ノ案ヲ得ル方ヲ採用シ

海軍

二隻共「クランプ」海軍社ノ注文スル見込ナシ

廿九年十月七日接獲 主管 政務局 中田

官房第四三五号白

米國に於て軍艦製造の件は在米
星公使より電報にて文部省に送
第百七号の電報に云ふ如く在米
日官房第四三五号の電報にて
第百七号の電報に云ふ如く在米
在米電報に云ふ如く在米

海軍大臣 西尾 英一

海軍大臣 西尾 英一

外務省 中田 中田



海軍

二二

次官

機密 第一三五二號

廿九年十月七日接受

海軍 政務局

印

官房 第四三五号

本國「フヒラデリフヒヤ」「ウヰリラム、クラム」造船
令社、二等巡洋艦二隻代價百七拾七
萬兩ヲ以テ製造方法ヲ交可致ル在米
我公使ヲ於テ右艦約締結中事及
之義、公使知照兼造船監督官
直記ヲ可申出ス其旨我公使ハ
此事及此旨及照會ス

明治廿九年十月七日

海軍大臣 齋藤實

海軍大臣 齋藤實

外務大臣 齋藤實

海軍

5-0176

0315

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

already suffering (in view of our gravel ex-
~~haustion~~) from lack of experts at the 鎮守村
 造船部, we cannot get sufficient superinten-
 dents for such appointments nor can we find
 the means for their travelling expenses &c
 which are not included in our estimates.
 The estimates will not therefore permit con-
 struction by the two Companies and since there
 appears to be little difference between them
 in point of skill, it is our intention, ~~selecting~~
 the one offering least deficit, to order both
 vessels at Cramp." Can you do it
 impossible ^{for you} to secure further reduction
 of price from Union Company as
 I deem it highly
 desirable that the
 orders should be given to both
 Companies.

Okuma

電送第
號

Hoshi,
 Washington.

In reference to your telegram
 from 海軍大臣 says, though both Cramp
 and Union Company have at the instance of
 our superintendent of naval construction
 reduced their original tenders, the new tenders
 are still in excess of our estimates and far
 larger than English or French. However as,
 (notwithstanding undoubtedly high cost), it would
 be ~~acting~~ ^{un-}too harshly (especially in view of our
 object in ordering in America) to cancel ^{now} orders
 for which tenders have been received, we have
 decided to provide for the deficit and give the
 orders to America. ^{with} In regard to your recom-
 mendation to order a vessel each at Cramp
 and Union, that deficit would thereby be
 increased and moreover the distance between
 the two yards would necessitate ^{as it is difficult to} appointment
 of superintendent to each, when we are

電送第
號

5-0176

0317



Hoshi,
Washington. (via Pet.)

27. In reference to your telegram 10,
海軍大臣 says "Though the reduced ten-
ders of Cramp and Union Company are still
in excess of our estimates and larger than English
a French, we have decided to give the orders to
America as it would be undesirable to can-
cel them now; but as it is ^{very} difficult to appoint
at each yard a superintendent, we intend to
order both vessels at Cramp." ~~But it is impossible~~
to secure further reduction in the price from
Union Company. I deem it highly desirable
to give the orders to both companies, you should
try, if possible.

Okuma

Oct. 7. 1896

電送第

七

甲申號

69

別紙電信紫省署上
本文ヲ若達ス

5-0176



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

明治廿九年十月八日
同廿九年十月九日
起草
發遣

土佐

政務局長中田

親展

在米

星公使宛

外務大臣

米國へ軍艦注文ノ件ニ関シテハ目録ニ電信ヲ以テ閣

下ニ注復致書未尚ホ機密ヲ十八号及四十九

号信ヲ以テ詳細由意見ノ趣由申越有之ヲ

外務省

其都度具筋ハ及移牒置其慶右ニ関スル帝

國政府ノ意向由系知有度旨本月二日ヨリ

十号電報相成其旨早速海軍大

臣へ發照會別記ノ通由大臣ヨリ回答有

之ヲ奉本大臣ニ於テ由意見如クナ

日本「ユニオン」會社へ「十條」注文ノ様

致度由本會社「十條」注文ノ請負

價格ノ減額セシメ由本會社「十條」注文ノ請負

第六一號

次官



海軍省
秘書課
庶務課

大相成度旨右海軍大臣回答、旨趣
本月七日ヲ二十七日電信ヲ以テ申進置キ次
有之ヲ右為念為ニ申進置キ敬具

(明治二十九年十月廿七日海軍大臣一ニ答フ旨ノ旨趣ニ
為記見ス)

外務省



政務局

次官

大臣閣下

中田

Peterburg Oct. 11. 1896. 12.40 P.m.

Received " 12 " 10.30 am.

Okuma,
Tokio.

在米公使 14. +月+日 Re.

Regarding your telegram 27, I proposed Union Iron-works to reduce their bid for one to one million three hundred eighty five thousand dollars 1,385,000 that is, half the amount for two vessels submitted by Cramp. Union Ironworks consented and said that they would if necessary even make two in double the same amount although they prefer to make only one, but as I would like if possible to have them built in the East and West, am trying for further reduction with Cramp.

Okuma.

電受第
七
六
九
號

64.7



5-0176

0321

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

電信留文

明治三十二年十月十日

在米

星公使

大隈外務大臣

第一四号

当電第一七号ニ答シテ一艘ニ對シテ

ハ五子印即チケラムアリニ一艘ニ對シテ

積モリタル代價ノ半額迄減額スベキ様ヨリ製

造言社ニ申上ルニ同言社ニ之ヲ承諾シテの成

外務省

一艘^{造言ス}ハ方^{造言ス}マシテ必要ナレバ同價

ニ艘^{共同價ニシ}ニ對シテ曰ヘリ然レトモ^{手帳}の本東西ニテ

ニテテ造言セル方^{手帳}コシキニ因リケラムアリ

尚^{手帳}ホ減價^{手帳}申上中ナリ

政務局

次官

大臣

Petersburg Oct. 14. 1876. 12:30 P.M.

Rec'd " 15 " 9.0 am.

Okuma,
Tokio

在米公使 十月十三日。15. Regarding my telegram 14, Cramp consented to build one in the same amount 1,385,000 dollars as Union Ironworks. I hope Japanese Government will decide at once to order one to them respectively. Whatever difficulty may be about the inspectors of the yards, shipbuilders can buy materials cheaper before election and will make it very convenient to be informed of the decision as soon as possible.

Ohmaye

電受第七八〇號



政務局

次官

大臣

Ohmaye
Petersburg

在米公使 30. In reference to your telegrams 14, 15 all my efforts to secure orders for one cruiser at each of the two Companies having failed, owing ^{mainly} to impossibility of appointing superintendent at each yard; I am compelled, with great regret, to instruct you to conclude contract with Cramp for building two Cruisers at the total cost of 2,770,000 dollars. Details of contract will be furnished you by ^{navy attaché} 宮園 造船監督官. Details ^{per} by mail.

Okuma

Sent Oct. 15. 1876.

電送第七六四號



政務局
中田

次官

大臣

Petersburg 17-10-96 3.10 pm.

Rec'd 18-11-11 9.15 am.

電受第

七八六號

54 W.

Okuma

Tokio.

在米公使 16 十月十日 On being in-
formed by me of the decision
of Japanese Government, mentioned
in your telegram 30; Union Iron
Works just now made a proposal
to build one for one million
three hundred thousand 1,300,000
dollars. Cannot you induce
Imp. Government to reconsider
the matter. I am inclined to
think, so far as policy is concerned,
it is advisable to build two in the
West, rather than in the East, if it
is absolutely necessary to build
both of them in the same yard,

1385,640
1385,640
85,600

on account of difficulty with the
superintendent. Let me have
your answer as soon as possible.

Ohmura.

電受第

號

5-0176

0324

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

電信訳文

明治廿九年十月廿七日發
ハナハ日着

在米

大隈外務大臣

星公使

カ一六号

貴電カ三〇号ニ由記載相成タル帝國政府ノ決

議ヲ本使ヨリ通知シタルニ「エニオ」製鐵會社ハ百三

拾万拜(三〇〇,〇〇〇)ニテ一隻ヲ造築セシムトシ只今

申出テタリ帝國政府ニ於テ本件ヲ再應詮議

セラル、據貴大臣ニ於テ由尽力相成間敷成

外務省

本使ハ單ニ改畧上ヨリ考ルニ監督官派遣ノ困

難ナルカ為メニ隻共一ヶ所ニテ造築セシムルコト是

非共必要ナリトセハ東方ヨリハ寧ロ西方ニテニ隻

共造築セシムル方得策ナリト思惟ス可成至急

申回報ヲ乞フ

次官 (印)

親展

五五 (機密)

明治十九年十月十九日起草
同 八 年 八 月 八 日 發遣

中田 (印)

不復 (印)

主他

浄書 (印) 校正 (印)

西郷海軍大臣宛 外務大臣

日曩ニ由照會有之升米國「クラム」會社ハ巡洋

艦二隻製造方注文ヲ相成ニ用同會社ト契

約締結方在四國公使ハ訓令、義ニ對シテ

外務省

「貴州」津浦線東去ル十五日該契約締結方

四公使ハ及電訓置キ慶尚又「ユニオン」會社ニ於

テハ白三拾万種ニテ一隻ヲ造築セシコトヲ申出ルニ付

テハ今一應本件ヲ詮議セシメテ様本大臣ニ於テ是

力致異間敷或又監督官派遣ノ困難ナル為メニ

隻共一ヶ所ニテ造築セシムルコト必要ニ於テハ、津浦

線東方ヨリ寧口西方ニテ二隻共造築セシメテ是

策ト思考スル旨別紙訳文ノ通四公使ヨリ電

5-0176

0325

報致未出就^今貴大臣、由意見兼知致度

尚委細、^{不日}由面議不致出右様由會

置相成度此段及由照會也

外務省

5-0176

0320

廿九年十月廿七日接受 官房政務局

中田

官房第四三五号ノ十一

大臣

決官

第一三三二號

米國クラムプ造船所社、巡洋艦二隻注
 文可致、付條約締結方我公使、訓令し
 義及國庫を以て我公使より事案を起し
 リ、エニオレ社社注交スルコトニ修儀由本
 同致致し、多機送五五機、内四層
 二隻共クラムプ
 層社、注交スルコトニ決意、本月八日造船
 監督官、詳細、命令致送致す、付令
 於之ヲ變更スルハ不都合有之且クラ
 ムプ層社、中出代償、額ナレ、拍ラ
 ス、エニオレ層社、注交スルハ大ニ感情ヲ
 害し、將來ノ支障亦少ト存す、去件ヲ而層社

海軍

一、一隻も注交、義、本月六日官房中四一
 五機、ニ、以、中送、道監督官、派遣
 派員、支那等義交、點鈔ナカラ、大ニ困
 難、有之、我公使、於、直接談
 話、主多分、減額ヲ謀セ、メタルニ拍ラス之
 注交セサルトキ、將來、外、支障を可
 知、思、存、限、大、意見及我
 公使、要求ヲ容、非、義、注交スルコトニ
 エニオレ、兩層社、各一隻も注交スルコトニ
 修儀致、案、取、成、本、致、送、
 船監督官、ハ、エニオレ層社、関スル事、
 調査、上、本省、更、命令可致、事案、
 照、付、クラムプ層社、二隻注交、條

5-0176

政務局
田

次官

大臣

Ohmura
Letersburg

在米公使 32. It has been decided
at last to order one Cruiser at
each of the two Companies. You may
therefore regard my telegram 30 as
cancelled; but you will ^{wait} for arrival
of naval superintendents full
instructions ^{from 海軍大臣} to the naval superintendents
and then conclude contracts with
both Companies at the same time.
Details per mail.

Okuma

Oct. 27 1896.

電送第
七
九
一
號

3877

政務局
中田

次官

大臣

Letersburg 27-10-96. 24-3 pm
Rec'd 28-11-10-0 am

Okuma
Tokio

在米公使. 十月廿七日. 18 Please answer
my telegram 16. Union Iron works
propose to build two vessels at
the lowest price they offered.

Ohmura.

電受第
八
一
一
號

1915

5-0176

0330

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

大臣

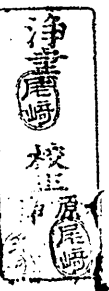


次官



第一二番

明治 年 月 日 起草
同廿九年十月三十一日發遣
廿九年十月三十一日發遣
主任



政務局

長

主事

大隈の事務

米島ノ中野信文ノ義ノ事ニ関シテ日露戦キ

ニテモ電信ノ送ルル收書様式送第

六号信ヲ以テ送付ナリトモ子ノ事ニモ

外務省

十四号電信ノ以テ申出ルル事アリ

由軍中ニ試檢候事モ電信ノ送付セ

日大ニ同書中ニ記載ノ理由ニ依リ何カ由

候ル事モ送付セ

電信ノ以テ送付ル事モ送付セ

送付ル事モ送付セ

送付ル事モ送付セ

送付ル事モ送付セ

5-0176

テハ既に二隻共ケルム。此ノ書社ノ運文ノ決意
ト右ニ示ス。詳細ノ命今モ送ル。此等ノ
吾等ニシテ人々モ之ヲ愛更スルハ不都合
ニモナシ。且ケルム。此ノ書社尙初ノ中出代價低
敷ナル。拘ラス。ニオシ。書社ノ一ノ運文スルハ感
情ヲ害シ。將來ノ支障トモ。或成古申。由書社ノ
一復ス。運文ノ義。此等ノ派。此等ノ支
取等ノ上。於ケル支ノ上。妙ラス。甚ク困
難ニシテ。此等ノ一。於下ニ於テ。後書社ノ一。テモ
分ノ減。於テ。後セシメシ。此等ノ拘ラス。之。運文
セサル。キ。此等ノ上ノ支。障。ニ。モ。成。ト。ニ。テ
此等ノ支。障。ノ。上。同。様。ノ。支。障。シ。テ。可
此等ノ支。障。ノ。各。一。隻。共。ケル。運文。スル。ト。此等ノ
成。子。此等ノ。一。ニ。二十。二。支。障。ノ。中。支。障。ニ
ハ。此等ノ。支。障。ノ。上。同。様。ノ。支。障。シ。テ。可
多。支。障。ノ。支。障。ノ。得。ル。由。可。者。於。テ。モ。斯

外務省

ふ、漢ヲ敵スルトニ成好都々改、ま運子其本大

西ニ於テ海満里ニ存在ナ

此ハ南緯中緯大緯斗艦漢ニ入リ、其トスル海軍者、於テ遠シ船監

昔古ニ命令シ必要ノ事、以テ運ニ夫ニ之回

洋ヲ往カシメ、其ノ将来ニ我ニ使ラリ直接高

浅スルガ如キ事、其ノ様此ニ言フ由也

中東キ、漢ナリ、其ノ子孫ニ其ノ事ニ成云

おかしき事なり

外務省

5-0176